

# 2022・会長杯

## 神奈川県学童軟式野球選手権大会開催要項

主催 神奈川県少年野球連盟学童部  
(神奈川県野球連盟学童部)

1. 開催期間 令和4年7月16日(土)～7月31日(金)
2. 大会会場 境川遊水地公園少年球場・相模三川公園少年球場  
横浜スタジアム・サーティーフォー保土ヶ谷
3. 出場チーム 県行政区分割代表(県下各地区代表54チーム)
4. 出場資格 各地区大会の上位チーム、支部長及び本部の推薦を受けたチーム
5. 参加料 1チーム ¥8,000と選手登録書2通を主将会議に持参のこと
6. 主将会議 7月10日(日)午後6時より かながわ労働プラザ  
横浜市中区寿町1-4 TEL 045-633-6110  
(出場チームは成人1名・主将1名【ユニホーム着用】で出席)
7. 開会式 7月16日(土) 横浜スタジアム
8. 試合 7月23日(土)・24日(日)・25日(月)・26日(火) 27(水), 28(木)(予備日)
9. 閉会式 7月31日(日)午前9時から準決勝・決勝・閉会式於、サーティーフォー保土ヶ谷
10. 後援 神奈川県野球連盟・神奈川県・神奈川県教育委員会・横浜 DeNA ベイスターズ  
(財)横浜野球友の会・神奈川新聞社
11. 協力 ナガセケンコー株式会社・株式会社共同写真企画・(株)フィールドフォース
12. 問い合わせ 神奈川県少年野球連盟学童部  
事務局 坂井 090-4664-0535

# 大会運営に関する事項

学童部の大会は、公認野球規則、競技者必携および大会特別規則を適用します。

## 1. 参加資格

(1) 小学生で編成され登録された単独チームを原則とします。

【注】登録完了しているチームが人数不足により10名以上のチーム編成ができない場合、  
連合チームの大会参加を認めます。

(2) 選手の登録は10名以上20名以内とし、男女を問いません。

## 2. 会議は、監督主将会議とする。

監督主将会議には、監督とユニフォーム着用の主将が出席すること。

① 監督主将会議で、抽選会を行います。

② 会議で決められた事項は、チーム全員に必ず徹底させてください。

## 3. 大会特別規則

(1) 試合は7回戦とし、試合開始の「プレイ」宣告後、1時間40分を経過したら  
そのイニングが最終回となります。

【注】決められた時間が経過したら、回数に関係なく正式試合となります。

(2) タイブレイク方式（特別延長戦）

7回を終了して同点の場合、決められた時間が経過して同点の場合はタイブレイクで行います。  
タイブレイク方式は、無死一二塁・継続打順とし前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を  
二塁走者とし無死一二塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとします。勝敗  
が決定しない場合は、更に継続打順で1イニング行います。なお勝敗が決定しないときは、抽選  
で勝敗を決定します。

【注】大会の運営上7回が終了するか、決められた時間が経過して同点の場合は、タイブレイク  
方式を行わず、抽選で勝敗を決定する場合があります。

(抽選) 抽選は○×式とし、○印の多いチームの勝ちとします。

(3) 得点差によるコールドゲーム

点差によるコールドゲームは、3回10点差、5回7点差とします。

(4) 特別継続試合

試合が5回以前に中止になった場合（ノーゲーム）でも、5回が過ぎて同点で

試合が中止になった場合（正式試合でタイゲーム）でも、再試合にしないで翌日又は後日特別継  
続試合として試合が中止になったイニングから試合を継続して行います。

なお、特別継続試合は、中断された試合と通算して1時間40分まで行います。

(5) 投手の投球制限

投手の投球については、肘、肩の障害防止を考慮し、一日7イニングスまでとします。

但し、タイブレイク方式の直前のイニングスを投げ切った投手に限り

一日最大9イニングまで投げるすることができます。

【注】投球イニングに端数が生じたときの取り扱いは三分の一回（アウト一つ）

未満であっても一イニング投球したものとして数えます。

又、投手の投球制限については野球肩・野球肘の障害防止を考慮し

1日の投球は70球を目安とします。

# 競技運営に関する事項

1. その日の第1試合は試合開始予定時刻の30分前、第2試合以降は、前の試合の4回終了時まで  
に打順表6通（登録された全員を記入し、必ずふりがなを付けたもの）を監督と主将が大会本部に  
提出し、登録原簿と照合ののち、球審立合いのもとに攻守を決定すること。  
【注】前の試合が早く終了した場合は、次の試合を試合開始予定時刻前に開始する  
ことがありますので、試合開始予定時刻60分前には球場に到着して  
前の試合の経過に注意してください。
2. ベンチは、組み合わせ番号の若いチームを一塁側とする。  
(1) 試合中ベンチに入れる人員は、登録されユニフォームを着用した監督30番  
コーチ29番・28番及び選手20名以内と、チーム代表者、マネージャー、  
スコアラー、トレーナー(有資格者)各1名と、熱中症対策として、保護者2名までとします。  
【注】選手は、必ず10名以上ベンチに入らなければならない。  
なお、ベンチに入れる全員が、スポーツ傷害保険に加入し、大会期間中に起きた  
傷害事故等は、当該スポーツ保険の適用を受けること。  
また、健康保険の被保険者名と番号の控えを持ってきてください。  
(2) ベンチ内で電子機器類（携帯電話、パソコン等）携帯マイクの使用を禁止するが、電子スコア  
記録用として1台の使用を認める。  
なお、ベンチ内でメガホン一個に限り使用ができます。
3. 使用球と用具・装具  
(1) 大会使用球は（公財）全日本軟式野球連盟公認ナガセケンコーボールのJ号ボールとし  
大会本部で準備します。  
(2) チームはユニフォーム、アンダーシャツ等は、同色、同形、同意匠の物を  
使用すること。但し、スパイクについては金具の付いたスパイクは使用できません  
(3) ユニフォームの袖の長さは両袖同一で、左袖に日本字又は、ローマ字による  
県名を必ず付けなければなりません。  
尚、他のものを付けることはできません。  
(4) バット  
金属製バット・ハイコンバットは、JSBBのマークの付いた公認バットを  
使用すること。  
(5) 捕手の装具  
捕手は、連盟公認のマスク・ヘルメット・プロテクター・レガーズを使用  
すること。また、危険防止のためファールカップも必ず装着すること。  
(6) 打者、次打者、走者、ベースコーチも連盟公認のイヤーフラップ付きのヘルメットを  
着帽すること。
4. シートノック行う場合は5分間を限度とします、シートノックの時、補助員として  
コーチ（背番号28、29）も認めます。  
ただし、大会運営上シートノックを行わず試合を開始することもあります。
5. 球場内でのトスバッティングのみ認めます。（フリーバッティングは厳禁です。）  
その日の第一試合に出場のチームは、外野に限り練習を行うことを認めます。

6. 申告故意四球については採用致します。

守備側チーム監督が審判員に故意四球の意思を伝えた場合は（ボールデッド）打者にはボール4個を得たときと同じように一塁へ進むことが許される。

7. 小雨の場合でも、球場の使用が可能な場合は試合を行うことがあります。

8. 雨天時の中止案内等掲載場所

神奈川県少年野球連盟学童部大会開催案内 <http://kbbainfo.starfree.jp/>



## 連盟取り決め事項

1. ファウルボールの処理について

ファウルボールが打たれた場合は、一塁側のものは一塁側ベンチが、三塁側のものは三塁ベンチが、本塁後方のものは攻撃側で処理してください。

2. 攻守交代の時には、ボールを必ず投手板近くに置いて交代すること。

3. 試合のスピードアップについて

(1) 準備投球について

投手の準備投球は、試合開始の表裏及び救援時には投手は捕手を相手に5球（時間にすれば1分以内）とし、次回からは3球とします。

(2) 攻守交代について

攻撃側は、第三アウトが成立したら、プレーヤーは速やかにベンチを離れて駆け足で守備に向かうこと。特にバッテリーは、準備投球があるから、率先してベンチから出ること。

(3) 守備側のタイムの回数制限について

捕手を含む内野手が、1試合に投手のところへ行ける回数は、7イニング試合にあっては3回以内とします。

尚、タイブレークとなった場合は、1イニングに1回行くことができます。

投手のところへ行くときは、往復を駆け足で行いプレイの開始を遅らせてはなりません。

(4) 攻撃側のタイムの回数制限について

攻撃側のタイムは、1試合に3回とします。なお、タイブレークとなった場合は、1イニングに1回とします。

(5) 内野手間の転送球について

内野手間の転送球は、一回りとし、打者が打者席で打撃姿勢を取る前までに投手に返球するようにしてください。

(注) 試合が著しく遅れている場合は、試合の進行を早めるため内野手間の転送球を禁止する場合があります。

(6) 内野手の投手への返球について。

投手に返球する内野手は守備位置を離れずに投げ渡してください。

(7) 投手の投球間隔について

投手は、捕手のサインを見るときは、必ず投手板について見るようにしてください。

- (8) 投手の塁への送球について  
離塁していない塁への送球は遅延行為でボークになります。また無用と思われる塁への送球が度を過ぎると審判員が判断したら、反則行為とみなされます。
- (9) 捕手について  
投球を受けた捕手は、その場から速やかに投手に返球すること。
- (10) 打者について  
打者は、速やかに打者席に入って打撃姿勢をとること。また、打者席内でサインを見ること。次打者は、次打者席で低い姿勢で待機すること。投手も必ず実行すること。
- (11) 走者について  
ファールボールが打たれたときは、速やかに戻って、元の塁に触れること。
- (12) 内野手について  
内野手が投手の所へ集まるときは、往復を駆け足で行い、このためにプレイの開始を遅らせてはなりません。
- (13) ベンチについて  
ベンチから無用とおもわれるサインを送ることは許されません。
- (14) その他の事項については、全日本軟式野球連盟発行の競技者必携、少年野球に関する事項を読んでください。
4. その他（記念写真の撮影について）  
チーム集合写真等は「共同写真企画」が試合開始前に撮影します。  
後日、同社から見本がチームに送付されますので、それを見た上で申し込んでください。

---

## 学童部の指針

「3プラス、1ない運動を」学童部の指針として取り組んでいます

★3つのない ・「あきらめない」・「くじけない」「投げ出さない」

★プラス1 ・「失敗を失敗に終わらせない」

---